

①新目標検討の経緯

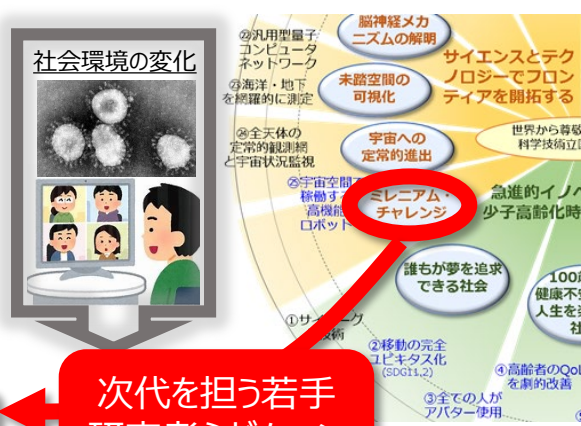
○ムーンショット型研究開発制度では、社会環境の変化等に応じて目標を追加することとしており、新型コロナウイルス感染症を受けた社会経済情勢の変化も踏まえた新たな目標を検討することとなった。（『新たなムーンショット目標の検討の進め方について』 R2.8.3）

ムーンショット目標

- 目標 1 : 2050年までに、人が身体、脳、空間、時間の制約から解放された社会を実現
- 目標 2 : 2050年までに、超早期に疾患の予測・予防をすることができる社会を実現
- 目標 3 : 2050年までに、AIとロボットの共進化により、自ら学習・行動し人と共生するロボットを実現
- 目標 4 : 2050年までに、地球環境再生に向けた持続可能な資源循環を実現
- 目標 5 : 2050年までに、未利用の生物機能等のフル活用により、地球規模でムリ・ムダのない持続的な食料供給産業を創出
- 目標 6 : 2050年までに、経済・産業・安全保障を飛躍的に発展させる誤り耐性汎用量子コンピュータを実現
- 目標 7 : 2040年までに、主要な疾患を予防・克服し100歳まで健康不安なく人生を楽しむためのサステイナブルな医療・介護システムを実現

目標 X : 新たなムーンショット目標(*)

ビジナリー会議提言／ 13のビジョン



次代を担う若手研究者らがムーンショット目標を検討

③ミレニア・プログラムの新しい試み

1. 各チームの伸びしろ・成長

若手研究者らによる21チームがそれぞれの構想について意欲的に調査研究を実施。
→採択時は、ビジョンが不明確であったが、6か月の調査研究期間中の公開シンポやチーム間の議論、VLとの対話などにより、大いにブラッシュアップできた。

2. VLのチームへの援助・助言

VLは、若手が自ら考え決めることが重要であることに留意し各チームの主体的な活動を尊重しつつ、様々な視点からの助言・議論や有識者の紹介などのサポートを実施。

3. チームと寄り添って調査研究(6か月)を伴走支援

JST内にコンシェルジェチームを作り、各提案チームの相談役になって、困りごと等を支援。チームのサポート活動を通し、コンシェルジェ役自らも成長できた。

④評価会議(7/18)&最終評価会議に向けて目標案の深化

- MS目標候補につながる目標案として、評価会議（7/18）にて21チームから5つのテーマ（気象制御、こころ、生態系、インフラ、自己実現）を選定。
- 最終評価会議（8/7）に向けてチームリーダーが担当VL・事務局と集中的な議論を重ね目標案の深化を行った。

主な観点：

- ✓ 国民との共有を意識したビジョンの整理（統合グループでは、担当VLがモデレートして各チームの上位概念を整理・ビジョン化）
- ✓ 実現手段の再整理とCredibilityの確認

②全体日程

2020年12月 1次審査：129件→21件に絞り込み

目標決定フェーズ（ミレニア・プログラム）

2021年1月～7月

21チームによる調査研究

- ・チームごとの調査研究
- ・複数チームによるディスカッション
- ・ビジナリーリーダー(VL)との意見交換
- ・調査研究報告会（7月17・18日）



7月 1次評価

外部有識者による報告書査読・科学技術面の評価

ビジナリーリーダーによる目標候補案選定

8月 最終評価

新目標候補作り込み

ビジナリーリーダーによる目標候補選定

←現時点

CSTIにおいて、目標決定

研究開発フェーズ

CSTIにおいて、目標決定

JSTがPDを任命（目標毎）

JSTがPMを公募・選考

研究開発を開始

目標A

PD

PM1

PM2

PM3

PM4

目標B

⑤最終評価会議(8/7)

5テーマから⇒2目標候補（①気象制御、②こころ）を選考



⑥CSTI有識者議員への報告(9/16)

渡辺VL・JST濱口理事長による説明・審議（公開）

←本日

⑦今後の課題・期待

- ・（新目標）社会実装を意識したプログラム運営
- ・（それ以外のチーム）プランB的支援の継続実施・検討（他プログラムへのつなぎ等）